

未来の**アグリスタ** ～新たな農への**挑戦者**たち～



就農された卒業生5人にインタビューしました！

①出身地 ②前職 ③趣味 ④ルーティン（毎日欠かさずしていること）⑤今後の抱負



村上 泰平さん(37・筑後市)

イチゴ生産者

①久留米市②会社員③楽器（ベース、ギター）④毎朝、地域のラジオ体操への参加⑤将来は、自分たちのように新しく農業の道を目指す人にアドバイスできるように技術を身に付けたい。

研修生の仲間、先生、ベテラン農家の方、部会の方と知り合えたことが財産です！



奥さん：優子さん

子どもがおいしそうにイチゴを食べているのを見て、「自分の手で作ったもので人を喜ばせる仕事も良いな」と思い立ち、就農支援センターの門を叩きました。



奥さん：彩さん

家族でたまたま立ち寄った農業フェアがきっかけで、農業の道を志し、筑後市出身の彩さんと一緒に筑後市へ移住。就農支援センターで1年間農業を学び、就農することができました。

ベテラン農家の方の指導を受けられて本当に良かった。いろんな人との繋がりにも感謝。

油小路 隆敏さん(40・筑後市)

イチゴ生産者

①千葉県②通信会社③食いしん坊ばんざい。おいしいもの探し④ヘルニア防止の腰のストレッチ⑤コツコツ焦らず慢心せずに一步一步階段を登っていききたい。知り合いを増やしたい。



西 裕之さん(32・広川町)

イチゴ生産者

①佐賀県②会社員（農機関係）③ツーリング、キャンプ④特になし⑤まず、自立して十分な収量を上げられるようになる！そして、先生方のように人に指導できるぐらいまで腕を磨きたい！

先生方のトップレベルの技術を教えていただいたので、何もかもが勉強になりました。



同期生の仲間やイチゴ生産者の方に相談して、アドバイスをもらっています。自分なりのスタイルを確立させ、先生に負けたくないような農家を目指したい。



経営が成り立つだけの収量が上げられる自信が持て、研修を終え、確信に変わりました。

人がやっていないこと（結果が分かっていないこと）に挑戦していきたい。

竹村 健児さん(35・筑後市)

トマト生産者

①福岡市②IT関係③家庭菜園④特になし⑤いろいろなアドバイスをいただいているベテラン生産者の方のように、部会で1番の収量を上げられるようになりたい。



植本 哲司さん(46・黒木町)

トマト生産者

①福岡市②会社員③家庭菜園、DIY（日曜大工）④子どもの送り迎え、弁当作り⑤「家族全員で引っ越して来て良かったなあ」と思えるようにまずは売上高1,000万円を目指します！



就農支援センターで1年間学んだことで、農業の一連の流れを把握でき、実際に就農するときに無理のない計画を立てることができました。

先生、部会の方、JA営農指導員と知り合いになれたことは非常に頼もしく思います。



後列 施設管理者 井上清司職員 トマト研修生 植本哲司さん イチゴ研修生 村上泰平さん トマト研修生 竹村健児さん 指導者(トマト生産者) 横溝伸生さん
前列 指導者(イチゴ生産者) 茅島博敏さん イチゴ研修生 油小路隆敏さん イチゴ研修生 西 裕之さん

新規就農希望者を対象に、農業・経営に関する技術や知識習得に向けた研修を行う、JA就農支援センターで8月31日、1年間の全ての研修を終えた第1期生5人が退所式を迎え、卒業しました。退所式には、就農する卒業生をはじめ、講師を務めた生産者やJA、行政などの関係者ら約40人が参加しました。

第1期卒業生はイチゴ生産者となる村上泰平さん、油小路隆敏さん、西裕之さんの3人、トマト生産者となる竹村健児さん、植本哲司さんの2人です。卒業生5人は、9月からそれぞれJA輪旋の遊休ハウス等を活用し、管内で新規就農しています。退所式では、5人は修了証書を授与された後、それぞれが研修の成果報告を行いました。

卒業生の1人、植本さんは「農業というのは、入口がせまく入り込みにくく、非常にハードルが高く感じていた。農地をどうやって手に入れたらいいのか、どのような資材が必要なのか、当たり前のことが分からない状態だった。しかし、就農支援センターで1年間学び、それらの問題を全て解決することができた。



この知識は今、自信につながっている」と力強く話していました。久保薫JA組合長は「今後、皆さんには、就農支援センター第1期生という大きな看板を背負いながら農業をしていただく。思うように、計算通りにいかないのが農業だが、やる気と情熱を持って一步一步しっかりと前へ進んでもらいたい」と激励しました。



修了証書を受け取る竹村さん

JA就農支援センター第1期生
研修を終え、いざ就農へ